84. 山口県「きらら博」の照明設備

吉満 伸一
(八千代エンジニアリング株式会社)

藤田 淳一 中込 浩之
(小糸工業株式会社)

1. はじめに

新しい世紀が始まる西暦2001年7月14日から9月30日まで、山口県阿知須（あじす）干拓地で「いのちきらめく未来へ」をテーマに「山口きらら博」が開催された。会場内に開催のメインテーマである「いのち」を想像させるイルミネーションや街路照明を設置した。ここでは、主に屋外に設置した照明設備について報告する。

2. 照明設備の概要

(1) センター道路

会場に向かうセンター道路はシンプルで落ち着いた雰囲気を感じるデザインとし、自然石混入コンクリート照明柱を採用している。照明器具も海からの風を考慮し、アルミダイカスト製の軽量でコンパクトなものを採用している（図1）。車の通行がメインであることから、光源をNHT180LSとし、十分な明るさと円滑な誘導効果を確保している。36基

図1 センター道路

(2) 月の海

自然そのものの海水を引き込んだラグーンには、生命の誕生をイメージしたLEDイルミネーションを設置した（図2）。LEDを光源とし高寿命はもちろん7色の発光色を楽しむことが出来る。自然の海水を取り入れた月の海は、潮の満ち引きにより水面が上下するため、照明器具が海水に浸水する可能性がある。そのため、灯具上面1.0m（最大水深）まで対応可能な器具構造とした（図3）。1基（光源4台内蔵）

図2 月の海

(3) 園内園路・外周道路

会場内にある施設は主に屋外通路を利用し移動するため、防犯や安全な人の移動を補助する街路照明（H=5.0m）を設置している（図3）。照明ポールはPHSのアンテナや音声案内スピーカーを取り付けたアルミ製複合ポールもある。光源には高演色形高圧ナトリウムランプ140W(Ra85)を採用し、歩行者照明に適した演色性を確保している。65基

3. まとめ

会場である阿知須干拓地の南工区は「スポーツ交流ゾーン」、北工区の一部は野鳥観測が出来る「自然観察公園」として生まれ変わっている。今回の照明設備はイベント会場としての演出や機能はもちろんであるが、恒久整備としての「時代とともに成長し、変化していく公園」というコンセプトを受けて無駄のない機能美という言葉に相応しい設備に仕上がっていると感じる。本事例が有効的に活用され、良好な照明事例創出に役立つことを期待する。

図4 園内園路

図3 器具取付状況

Lighting equipment of Yamaguchi Prefecture "kirara expo"
Shinichi Yoshimitsu, Junichi Fujita, Hiroyuki Nakagomi